

— 大樹町宇宙航空課ニュースレター —

Taiki Aerospace News

大樹宇宙デー開催！！

11月22日、宇宙イベント「たいき宇宙デー2025」を開催しました。町が進める宇宙の取り組みについて町民の皆様に理解を深めてもらうため、町長らがHOSPOの整備状況を説明しました。今回の宇宙デーには約50名の方が参加し、IST本社、LC1、LP12、滑走路を見学しました。

インターフェラテクノロジズ社において、社員の金井さんがZEROの開発状況を紹介した後、参加者はLP12に移動してLC1の様子を見学しました。LP12では、今年7月に台湾のjtSPACE社のロケット「VP01」が打ち上げられた射点から、スペースコタンの伊藤さんが当時の様子を説明しました。また、同エリア内に設置された写真パネルを使い、町長が工事状況を解説した後、物見台からLC1を見学しました。

滑走路では、大樹町のふるさと納税の返礼品にもなっているスポーツカーによるフル加速体験を、抽選で選ばれた方に体験していただき、最後に参加者全員で記念撮影を行いました。

今回の宇宙デーは、町内で進められる宇宙の取り組みや、来年9月完成に向けて工事が進むLC1について、町民の方々に理解を深めてもらう貴重な機会となりました。



【町長よりLC1の説明 (LP12) 】



【記念撮影 (滑走路) 】

防衛装備庁による無人航空機飛行試験

今年7月から11月にかけて、防衛省・防衛装備庁がHOSPO滑走路を使用し、無人航空機の飛行試験を実施しました。

このたび、試験が無事終了し、防衛装備庁公式YouTubeチャンネルにて実験の様子を紹介する動画（<https://www.youtube.com/watch?v=5FfUsyQHfu0>）が公開されています。HOSPOで行われる実験を映像でご覧いただける機会は、普段はありません。ぜひご視聴ください。



©防衛装備庁 航空装備研究所



【無人実験機と有人ヘリコプター】



飛行試験の動画はこちら

JAXA連携授業を実施！

11月18日と19日、大樹中学校と大樹小学校で「JAXA連携授業」を実施しました。町とJAXAが締結した連携協力協定に基づき、JAXA職員を講師に迎え、大樹町で行われている大気球実験や宇宙に関する講義を行いました。

中学校では、JAXAの取り組みを学んだうえで、JAXA監修教材を用い、プログラミングアプリ「Scratch」で人工衛星やロケットの打上げをシミュレーションしながら、プログラミングの基礎を体験しました。

小学校では、班ごとに巨大なポリエチレンシートを使った熱気球づくりに挑戦。ドライヤーの温風を入れて手を離すと、気球がふわりと浮き上がり、全ての班が実験に成功しました。

今後もJAXAとの連携を深め、実験利用を通じた航空宇宙産業の発展と、より充実した宇宙教育の推進に取り組んでいきます。



【プログラミング体験】



【熱気球実験】



地球と太陽はどれくらい離れているの？～今日のなんちゃら雑学～

今回のテーマは「太陽との距離」。人間や動植物が生きていくには太陽は欠かせないけれど、地球とどれくらい離れているんだろう？地球と、宇宙にある星の間にはものすごく距離がある。だから、星の光が地球に届くまでには時間がかかるんだ！地球と太陽だと、およそ1億5000万キロ離れているから、太陽の光が地球に届くまでには8分ぐらいかかるっててしまうんだ。つまり、今見ている太陽は8分前ぐらいの姿なんだって！不思議だね～

(株)日新様より1,000万円の企業版ふるさと納税

町は株式会社日新様から、北海道スペースポート(HOSPO)プロジェクトの資金として、1,000万円の企業版ふるさと納税によるご寄附をいただきました。

町では、ロケット射場など北海道スペースポートの施設を拡充する「ハード整備」と、町内の宇宙関連企業へのサポートや航空宇宙に関する普及啓発などの「ソフト支援」を2本柱にHOSPOプロジェクトを推進しています。

今回は「ハード整備」に対する支援として寄附をいただきました。寄附金は、HOSPO施設を拡充するための資金として活用させていただきます。

